

「共感することが非常に多い！」

私は日本統合医療学園理事長の吉村吉博です。これまで大学で40年間、活性酸素、機能水の研究を行ってきており、同時に臨床では中医学（漢方）と養生学を積極的に治療に用いております。

小林先生の「がんの真相と終焉」を拝読させていただき、共感することが非常に多く、これからの医療を変えようとしている私にとっては非常に参考になりました。

私の著書「予防は最大の治療なり」でも記しておりますが、現代医学は二次予防から出発しており、中医学は未病の治療をはじめ一次予防を重視しており、がんの予防を行うことが国民の健康を守ることに繋がります。そのためには現代の欧米型食事から和食を見直すことが急務だと考えております。

日本の医学部では栄養学の講義がなく、日本の医師は法的には鍼灸や漢方治療、栄養指導ができるが、その神髄は全く分かっていないようです。米国のようにそれぞれの専門家とチームを組んで行うことは非常に少ないです。これには医師を頂点とするピラミッド型医療を変えることが重要であると思われまます。

「がんは低酸素、低体温、低血圧で起こりやすく、ミトコンドリア呼吸代謝障害である」。これはまさに酸素・活性酸素を行ってきた私にとっては同感です。そのために養生が重要であり、さらに私が治療している氣功（呼吸療法）にも繋がっています。

日本でのがんの検査にはX線CTを用いることが常識になっていますが、その使用頻度が高いと自身の免疫を低下させて、がんの成長を助長していることは、医師や国民も気がついていません。国が認めた標準治療がすべて正しいという「天動説」が問題であると思っています。

漢方薬についても触れておりますが、がんに対しては瀉剤と補剤があり、補剤としては人參をはじめ有用な生薬が沢山あり、いずれも免疫を高めるものが中心です。現代医療では、抗がん剤（瀉剤）中心であるため、体の免疫を低下させてしまい、がんで亡くなるよりも抗がん剤でなくなるケースが多く、国民の目に映りません。

和食には腸内環境をよくする納豆、ヨーグルト、味噌汁、酢、きのこなど推奨さ

れていますが、全くその通りです。特に中医学では免疫に関わるのは「腎」であり、腎によい食材がこれらの食品です。

がんリスク低減にはビタミンC、ビタミンA、ビタミンDなど重要視されていますが、ビタミンばかりでなく、日本人が不足しているミネラルの重要性もされています。本来の和食で十分摂取できるものですが、農薬、食品添加物、遺伝子組み換え、食物工場の高度経済成長に伴って大幅な摂取量の低下となっています。今後は経済成長よりも国民の健康を重視する政策に舵を変えないと不幸な国になります。

吉村 吉博（社団法人 日本統合医療学園 理事長）

吉村 吉博 社団法人 日本統合医療学園
〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-47-14
電話:03-6914-3322 携帯:090-8849-4007
Email:dr.yoshimura@nifty.com <http://tougouiryo.jp/>